

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
免疫検査学 I	2年次	必修	講義	1単位（30時間）	小幡 文弥
授 業 概 要					
免疫学の発展と現代免疫学に至るまでの基礎知識を学び、生体防御機構としての免疫学の意義を理解する。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・免疫応答の機序を理解する。</li> <li>・生体防御機構を理解する。</li> <li>・免疫学的臨床検査方法を理解するとともに、免疫学の進歩に伴う新しい検査方法の原理と応用を理解する。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
回	学 習 内 容				担当教員
1	免疫学概要 現在までの免疫学の発展				小幡 文弥
2	免疫の成立と生体内免疫系（細胞及び組織）				
3	生体防御と免疫担当細胞 1 体液性免疫と細胞性免疫				
4	生体防御と免疫担当細胞 2 サイトカイン				
5	生体防御と免疫担当細胞 3 自然免疫と獲得免疫				
6	生体防御と免疫担当細胞 4 ファゴサイト				
7	生体防御と免疫担当細胞 5 抗原提示細胞				
8	生体防御と免疫担当細胞 6 Tリンパ球				
9	生体防御と免疫担当細胞 7 Bリンパ球				
10	生体防御と免疫担当細胞 8 その他の細胞				
11	抗原 抗原の定義、抗原の構造、抗原の種類				
12	抗体 1 抗体の定義、抗体の分類				
13	抗体 2 抗体の構造、機能と生物活性				
14	補体 1 補体の定義、補体の構造、補体の生理活性				
15	補体 2 補体価測定、臨床的意義				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書及び配付資料により予習と復習をするといっそう理解が深まる。</li> <li>・講義は教科書及び配付資料をもとに実施し、適宜、視聴覚教材を用いて講義する。</li> </ul>					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月曜試験を実施する。</li> <li>・遅刻や欠席等で月曜試験を受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。</li> <li>・定期試験(70%)及び月曜試験(30%)により評価する。</li> <li>・再試験は月曜試験の内容を合わせて出題し、これを評価する。</li> </ul>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
[教科書] 臨床検査学講座 免疫検査学（著者：窪田哲朗 出版：医歯薬出版株式会社） 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症（著者：森尾知宏 出版：MEDIC MEDIA）					